

ロシアの緊迫する核の脅威、弱体化するアメリカ、クリスチャンの心構え

コロラド州からシャローム。わたしは現在ここで著書の準備をしている。タイトルは「Last Hour/終わりの時」。その中で、現在世界中で起こっていること全てを説明する。第一ヨハネ [2:18](#) にこうある。「小さい者たちよ。今は終わりの時です。」そして、わたしたちは、確実に終わりの時に生きている。今回は、それに関する とても気になることを伝える。

わたしはここ数週間、中東で、ロシアが行っていることを伝えてきた。さらに具体的に言うなら、シリアで起こっていること。10 日程前だったと思うが、プーチン大統領が、ゴグ、マゴグの大首長であるための全ての基準を満たしていると伝えた。そして、彼は何らかの形で、これから起こるエゼキエル 38、39 戦争で、大変重要な役目を果たすと思う。

前回のアップデートは、ハルマゲドンの谷のすぐ隣にある、イスラエルの自宅から伝えた。

その時は、地中海に停泊している、6 隻のアメリカ軍艦から打ち込まれる可能性のある、あらゆる誘導ミサイルを麻痺させるため、SA-23 グラディエーター・ジャイアントミサイルシステムを、プーチンがシリアに配備した、と伝えた。しかし、みなさんの知っている通り、事態は、中東で、ものすごいスピードでエスカレートしている。しかも、中東だけではなく、前回のアップデートで NATO が、彼らの領域の東側に、ミサイルを配備することを、プーチンは大変心配していると伝えた。特に、最近大規模な軍隊と、対ミサイルシステムを築いた、ルーマニアでは、いずれは、これも核弾頭搭載可能なミサイルを発射するために使われると考えられる。

ということで、プーチンが危惧しているのは、上に立つ NATO とアメリカが、プーチンに何かを起こさせるため、挑発している点。だから、プーチンが、何かアクションを起こした時は、ただ行動に出たということではなく、それは逆襲であるということなのである。

だから、彼はそれを全世界に伝えようとしているのだ。面白いのが、これまでの 48 時間以内に、プーチンは冷戦終了以来なかったような行動を取っている。彼は、イスカンダルと呼ばれるミサイルを、ロシア領最西の地カリーニングラードに配備した。カリーニングラードの隣はフィンランドである。

イスカンダルというのは、基本ミサイルで、ロシアが 2006 年に開発したものだが、今説明しているのは、核弾頭を搭載できるシステムのこと。簡単に言えば、プーチンは、現在核ミサイルを西側諸国の正面に据えたということ。

では、これの何が面白いのか。

通常、ロシアはこういったことは全て非公開。否定をするのである。彼らはいつも「そんなものは西側の妄想だ」と言っていた。

しかし、今回は今までとは違い、ロシアは何も隠さず、さらにこれらのミサイルを、アメリカの衛星に沿って動かした。そうすることで、アメリカが目撃し、ヨーロッパや世界が目撃する。それだけでなく、ロシアの軍広報は出てきて、このことについてわざわざ公開した。第一に、イスカンドルミサイルが可動式であること。つまり、ロシアは「これらを永遠に設置するのではなく、これらは可動式で、我々はこれを持って移動しているだけだ。」と。第二に「ロシアのミサイル部隊は、年間を通じてロシア領土とロシア連邦全体を空、海、様々な方面から、自力で踏破するだけの能力を拡大している。これは戦闘訓練部隊である。」と、ロシア軍広報イーゴル・コナシェンコ将校が話した。

つまり何が起きているのか？

それは、ロシアは衛星監視の下で行動することで、自分たちの動きを世界に認めさせ、軍広報が出てきて知らせている。「そうだ。我々はこれを行っている。これは訓練、軍事戦略の一環で、通常のことなので、警戒する必要はない。」

しかし、これはでたらめである。普通の事ではない。核ミサイルを設置しておいて「いつもの事」とは普通は言わない。核攻撃に備え、何百万人も国民に、防爆シェルターに入る訓練をさせない。膨大な数の兵士に、核戦争に備えろと命じた上で、多数の異なる前線に送ったりはしない。もしこれが、ただの軍事演習なら、そんな行動はとらず、ロシアは現在、大変危険な遊びを興じているのである。その中で、第一に伝えているのは「アメリカよ、我々はお前の国に、核弾頭を打ち込むことを恐れていない。」第二に「シリアで起きていることに関して、我々は、アメリカの命令は一切受けない。」プーチンは「事実私は、中東問題、特にシリアにおいて、自分の戦略で中国と一緒に動き、アメリカの力も、西側の力も、私は誰の助けもいらない。全て、アメリカのすることは、私の目的を妨害するだけだから。」と言っている。

現在、この世は核戦争の瀬戸際だということを、我々は理解しておくべきである。興味深いのは、元ロシア大統領ゴルバチョフ氏が「今現在、非常に危険な時期に来ている。」と発言している。彼はアメリカ人でもヨーロッパ人でもなく、偏見のない元ロシア大統領の発言なのだ。明らかに、彼は現在起きていることを正確に理解していて、その上で、このようなことを言ったのだ。

もう一つ伝えておきたいのは、プーチンは、いつもカメラの前に人を送って、自分の言いたいことを言わせる、ということ。そうして世界にメッセージを発信する。彼が語っても、誰も聞かない。だから彼は、現在の西側のやり方への攻撃で有名な、テレビ司会者を送り込んだ。彼の名前は、ディミトリ・キスレオ氏で、深夜番組を持っており、昨日（2016.10.11）番組内でこんな事を言った。「ワシントンへのメッセージを送る。ロシアは“馬を武装”するのに時間がかかったが、素早く立ち上がる。」と。彼が言っているのは、ロシアの有名な言葉で“素早く立ち上がる”とは、最近のロシアの全ての配備のことを言っているのだ。つまり、先週話したように、ロシアは黒海の艦隊から、核弾頭搭載可能な誘導ミサイルを積んだ戦艦 3 隻を地中海に送り、先に話した通り、ロシアは核弾頭搭載能力のあるイスカンドルミサイルをカーニングラードに配備した。また軍事演習用に、数千のパラシュート隊をエジプトに送ると公表した。

また、先週伝えた通り、モスクワはアメリカと合意した3つの核協議を停止した。

ということで、何が起きているのか。

これはロシアによる西側、特にアメリカに対する挑発であって、プーチンは理由もなしにこの時期にこんなことは行わないということだ。アメリカ大統領任期終了まであと3か月のこの時期、こういう時期を我々は「機能不全」と呼ぶが、これは罠である。なぜかというと、大統領選の27日前に戦争をする大統領などいないから。ただし、強調している。その大統領が選挙の延期、または中止を狙っているのなら話は別になる。この先の27日間は非常に興味深く運命を左右することになる。その上で現在の疑問は、バラク・オバマ大統領はロシアに対峙することで大統領選を延期または中止する道を選ぶのか？それとも彼は引き続きこれまでにアメリカがロシアとの関係の中で築いてきた威厳を全て放棄する道を選ぶのか？

プーチンが現在行っていることは基本的にアメリカ大統領に屈辱を与えているのだ。わたしにはこれ以上表現が見つからない。

彼は今アメリカの大統領が「弱い立場」にあることを理解しており、その上でさらに打撃を与えているのだ。おそらく、これがアメリカに報復させる唯一の方法で、これによって大統領選に影響が及ぶことを承知の上である。わたしは、これまで何度も警告してきたが、アメリカの大統領選は唯一中東とヨーロッパで起こっている全ての事をエスカレートさせる原因となっている。なぜかということ、期限があることを誰もが知っているからだ。

彼らが欲しいものを手に入れるためには、その日までに行動を起こさなければならない。これらの事が中東でどのように影響を与えるのか。プーチンがアメリカとの核戦争を狙っているとはわたしは思わない。彼が実際に狙っているのは中東で一切の干渉なしに単独行動をすることだ。中東ではロシアはいかなる結果も背負うことなくやりたいように振舞うことができる。さらに言うなら、誰の顔色も伺うこともなく、彼は狂ったようにアレppoを爆撃し続けているが誰も何も言わない。国連安保理は4度議会を開いたが何か対処しただろうか。何もしていないのだ。

なぜならそれは、ロシアが国連にもアメリカにも誰の命令にも応じないと実に明確に示したからだ。（中東アップデート 2016.09. 25 公開参照）

ということで、現在ロシアが行っているのは、大きく遠回りさせるために世界の目をアメリカとロシアの対立に向けさせ、その間に中東でやりたい放題できるようにしているということなのである。中東でなら彼は爆撃でき、ミサイルシステムを配備し、やりたいことを何でもできる。誰もそれを叱責しない。ロシアはアメリカやNATOに対してそれはできないが、このことによって彼ら両方を恐れさせ脅迫し、シリアで動いているのだ。

ここからエゼキエル 38、39 の国が整ってくるとわたしは思っている。現在、アメリカは中東で起こっている事にはほとんど関与していないこと、ロシアがシリアに攻め込む主導権を握っていることをわたしたちは目にしている。また、プーチンがトルコのエルドアン大統領と面会するためにアンカラを訪れ、またイランと協定を結んだ。ロシア、トルコ、イランの連携が強化されていくのをわたしたちは見ている。しかし、ロシアが西側に対して行っていることは全て彼らがシリアに対して行っている事から目を逸らせるためのものなのだ。

さて、私は恐れてはいない。クリスチャンはこのことで恐れるべきではない。むしろ、にっこりと笑っているはずだと思う。なぜなら、イエスは「バラ色の人生」など約束されておられないのだ。私たちがもっとも理解しておくべきことは、私たちは終わりの日を生きているということである。ヨハネによれば、「終わりの時」である。イエスがマタイ 24 章、ルカ 21 章で語られたしるしの通りである。

イエスが語ったこともないような、その他のしるしや、その他のことを教えたり伝えたりする偽教師には、くれぐれも耳を傾けないように切に願いたい。聖書が語られていることを見よう。イエスが終わりの時のしるしとして伝えたすべてのことに注目しよう。

「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(ヨハネ 16:33 後半)

イエスは私たち全員にこう語られたのである。ヨハネ 16:33 の登場人物たち（イスカリオテュダを除く 11 弟子）だけに語ったのではない。今のこの時は、全てのクリスチャンが打ちのめされたり、元気を失うときではない。私たちクリスチャンにとって重要なことは、第一テサロニケ 5:11「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」と言われている通り、世の中の出来事を目撃し、私たちには希望があり、励みがある、ということを理解することである。

まず第一にイエスがすでに世に打ち勝って征服しておられることを理解する。私たちはその勝利を握りしめなくてはならない。

次に、私たちは約束にしっかりとしがみつかななくてはならない。テトス 2:13「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現れを待ち望むようにと…」イエスが来て、私たちを連れて行かれる。

イエスは心配するなど言われたのである。

「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」(ヨハネ 14:3)

「迎える」という意味のギリシア語は、地上まで来て私たちを連れて行く、という意味ではなく、主が迎える。つまり、私たちが天に挙げられて、主に迎え入れられてから、主のおられる所に行くのである。

クリスチャンは大患難を通ることはない。クリスチャンはイエスによって迎え入れられるのである。そして、この世で起こる恐ろしいことから、私たちは守られるのだ。

先週、カンザスで「携拳について」と「大患難と反キリストについて」の2つのメッセージを講演した。これから行われるミネソタでのカンファレンスも楽しみにしている。それは、Jan Markell の Olive Tree Ministry による「時代を理解する」というカンファレンスで、Anna Graham、Mark Hitchcock、Bill Canning その他の方々と共にメッセージを語る予定である。それから、私の親しい友人 Michelle Backman も来る予定なので、彼女と会うのをとても楽しみにしている。なぜ、それを楽しみにしているのかというと、世の中で何が起きているのかを理解しなくてはならないのと同じくらいに、私たちは、ダニエルが「悟りを得た」（ダニエル書 10:1）と言ったように、悟りを得なくてはならない。実に、たくさんの人が混乱しているが、私たちは神様が悟りを与えてくださるようにと祈るべきである。そして、クリスチャンとして、神様が与えてくださる悟りは、常に聖書が基準となっている。感覚や思い込みでもなく、感情でもなく、ある種のニュースや陰謀論を説いたウェブサイトでもない。わたしたちの悟りは、神ご自身から、神の御言葉を通して、直接与えられるべきものである。主は私たちが備えるのに必要なものはすべて与えてくださっている。私たちが、ただ悟るだけではなく、準備ができるよう、必要な装備をすべて、である。だから、どうか皆さん、希望を失わないでほしい。暗く、落ち込んでしまわないように。

もしあなたがクリスチャンなら、聖書は素晴らしいことを約束している。私たちはただそれをしっかりと握りしめ、深呼吸してヨハネ 16:33（前出）にある患難を耐え忍ばなくてはならない。しかし、私たちは祝福された望みを握りしめるのだ。主が、来られる。そして、私たちが主の元に迎えてくださるのである。

クリスチャンではない人は、本当に恐れるべきである。恐怖におののくべきだ。この世が、これから直面することは、これまでの歴史の中で一度もなかったほどのことだからである。それは、エゼキエル書にある通り、ある種の核戦争から始まり、とんでもない人物「不法の人」（第 2 テサロニケ 2:3）が登場するのである。彼は、その支配する時代の後半で恐ろしいことを行い、この地球の歴史の中で最も危険なことを行い、世の終わりの時に最も破壊的な時代をもたらす。

私は誰にも迷い出てほしくないと思う。それは、実に明確だ。

神はあらかじめ、ある人を地獄の裁きに定めていると教える教師がいるが、それは間違いだ。神は一人として滅びることを望んでおられないと聖書には書かれているからである。

「（神は）すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」（第 2 ペテロ 3:9）

そして、全ての人が挙げられ、全ての人が永遠のいのちを得て、全ての人が栄光の姿で主と共に戻ってくることを望んでおられるのである。「全て」といえば、全てなのだ。神は「世」を愛された（ヨハネ 3:16）。神がひとり子を与えられたのは、教会のためだけではない。だから、私たちは今までになかったほどに、世に伝えるべきなのだ。

今、私たちは御父の業に全力で励むべきである。私たちは勇気づけられるべきである。今はものすごい時代なのだから。どうか希望を失わないでほしい。唯一、私たちがこの世の他の者と区別される点は、父なる神の業に励むこと、聖霊に満たされて、常に御言葉に触れていること、そして、洞察力をもつこと。どうか、これらのことをできるようにお願いする。

終わりの時について語るウェブサイトや、facebook の約 90%が妄想に満ちていて、発信者たちは何をしているのかというと、いろいろなことを報告しながら、それがもし何も起こらなくても、誰一人として謝罪することもなく、訂正することもない。それは間違いである。だから、まず落ち着いて。そして、神が、この世において私たちをクリスチャンとして召して与えてくださったことにフォーカスしよう。

今、この facebook のライブメッセージを録画しようと思ったのは、一つには皆さんを励ましたいと思ったからである。もう一つは、神様はさらに偉大なることに向かって働いておられ、それに応答して私たちは準備をすべきだと思ったからである。

コメント欄に皆さんがどこでこれを視聴されているのかを書いてくださるとうれしい。どこの人が視聴しているのか、このミニストーリーがどこまで届いているのかを把握しておきたいからである。

それから、この特別な日に、皆さんに心から祝福を送ります。

今日はヨム・キプール。贖罪の日で、ユダヤ民族が断食をして罪を悔い改める日である。そして、この日、世界は狂ったようになっている。私は、同胞イスラエル人に対して祈る。真の贖罪、真の赦し、真の贖いは 2000 年前にささげられた犠牲によってのみ与えられるのだということを。彼らの目が開かれ、彼らが理解するように。

信じられないかもしれないが、贖罪日について書かれた、レビ記 23:27~32 は断食については何も語っていない。ここでは「魂を戒めなければならない」と言っているのであって、体のことは言っていない。ユダヤ人ラビはそれを「断食」だと

解釈したが、面白いことに聖書は「断食」についてははっきりと「断食」と書いている。でも、ここでは「断食」ではなく、「身（魂）を戒める」と書いてあるのである。

では、「身（魂）を戒める」とはどういうことか？身を戒めるというのは、悟りを得るということである。自分の力で、自分の救いに関することは、何もできない。

自力で自分を救うことは、できない。

自力で自分を贖うことはできない。

自力で主から罪の赦しを得ることはできない。

全ては2000年前にささげられた唯一の犠牲を通してでしか得られないのである。私は同胞イスラエルの目が開かれ、ヨム・キプールの本当の意味を理解することを祈っている。贖罪の本当の意味、犠牲の本当の意味、そして断食によつての罪の赦しの乞い、贖いを乞う必要はもはやないのだという事実を理解するように祈っている。それらすべてのことはすでに成就されていて、私たちがすべきことは、ただ「信じる」ことのみである。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を**信じる**者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）

「断食する者」ではなく、信じる者。

自己満足のために「何かをする者」でもないのである。

ヨム・キプールの後、イスラエル人は皆、周りのイスラエル人にこう聞く。

「断食した？」

「断食したの？どうだった？」

「断食した？」「もちろん、したよ」

「断食したよ」「すばらしいね！」…。

「私は断食した」「私は聖いんだ」と、全てがプライドのためである。彼らはその前には、断食が苦しくないようにと互いに祈りあうのを、私はよく見かけるが、いつから断食は楽であるべきだとなったのだろうか？自分が断食をしたからと言って、どうして他の人に断食したかどうかを聞く必要があるのだろうか？

私の祈り、私の望みはパウロがローマ人への手紙 10 章で書いているのと同じである。私の同胞、私の国の人々が救われることである。

「兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして神の義に従わなかったからです。キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」（ローマ 10:1~4）

ユダヤ人の救いはある。2000 年前、ユダヤ人、イスラエル人を通して救いがもたらされたのである。

彼の名はイエシュア。

イエシュアの意味は「救い」で、それが彼の名前であった。彼が、私たちの救い。彼が私たちの贖いで、彼を通して、私たちは救われるのだ。

「天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」（使徒の働き 4:12）

以上が贖罪の日、ヨム・キプールの私の祈りである。私の同胞が目を覚めますように。

そして、この特別な日、皆さんに対する私の祈りは、イエスが私たちに約束してくださったことと、終わりの時の特徴が私たちの周りに起こっていることを励みにして、頭を上げて、贖いが近いことを見ることができるようになる。体の贖いが近づいている。私たちの携拳が近づいている。これが祝福された望みである。

イエスに従いながら、この望みを持たない人たちがどう生きていけるのか、私には理解できない。「携拳なんてないよ」という人がいたとしても、これはイエスが主に従う者に与えてくださった約束なのだ。私たちはこの世の者ではなく、神がこの世に下される裁きを、私たちが通るわけがない。主は、私たちをその裁き「から」救いだし、守ると約束されたのであって、その裁きを「通して」ではないのである。私たちは頭を上げて、心から主を賛美すべきである。

私たちの携拳、私たちの救い、私たちの贖い…。私たちのラブチャー、ギリシア語では「Harpazo」が確実に近づいている。これは妄想ではない。引力がなくなるのだから、信じがたいことである。

しかし、第一コリント 15 章には、私たちは全員が変えられると書いてある。

「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく、変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」（第一コリント 15:51～52）

そして、それは世が気付かないうちに起こる。瞬く間に、瞬時に、私たちは変えられ、誰も気づかないうちにいなくなるのである。これは、全世界が主を見る、全ての目が主の来られるのを見る再臨とは違うのである。携拳は、スッと、あっという間に確実に起こる。どうか、取り残されないように！

大患難時代にキリストを受け入れる者は誰もが悲惨な目に遭う。とんでもないことである。その時代に救われる人は出てくるが、それでも、今こそが恵みの時である。

人の子は、初め、世を救うために来られた。

しかし、2 度目には、世を裁くために来られるのである。その時、ここにいたいと思うだろうか？ 誰もここにはいたくないだろう。主が地上に戻って来られるときには、主と共にいて、主と一緒に戻ってきたいものである。

携拳は、キリストが教会のために来られ、再臨は、キリストが教会と一緒にやってくることである。

私たちは、主と共に戻ってきたい。世が裁かれている間、私たちは天国にいて、主と共に戻ってくるのである。そして、1000 年の間、主と共に支配するのである。それから素晴らしい永遠へと移り、主と共にいつまでも永遠を過ごすことになる。なんと素晴らしい約束だろうか！

だから、皆さんには、暗い顔をして、落ち込まないように、心配しないでほしい。現在起こっていることは起こるべくして起こっていることで、これからも起こる。しかし、私たちが悟りと警告を受けているのは幸いなことである。神の驚くべき恵みが、それらのことを私たちに明かしてくださったのだから。私たちは心配したり、さらに混乱したり、心を煩わせる必要はないのだ。これらのことは起こると、主が言われたのだから。

では、みなさんに祝福がありますように！

シャローム！

平和の君、主によってのみ与えられる、人知をはるかに超えた平安がありますように！

Thank you!

God bless you!

コロラド州デンバーより、この後、ミネソタ州ミネアポリスへと移動します。それから、イタリア・ローマへ行って、イスラエルに戻る予定。

I love you all!

祝福された望みをもって、踏ん張りましょう！

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジュー-Amir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL（英語）、「DIVINE US」（日本語）を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル 4 : 7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO